

TSC中学生スクール【陸上競技】に所属していた 山田翔太さんが、中日新聞で紹介されました！

2025年(令和7年)4月11日(金曜日)

柔新 昇昇

岐阜から、パラリンピックメダリストが出るかもしれない。生まれつき左腕の肘から下が欠損している山県市の山田翔太さん(15)は、肢体不自由者の陸上男子100^{メートル}で世代トップクラスの成績を誇る。進学した県岐阜商高(岐阜市)で、鍛錬と挑戦の日々を送る。(後藤正樹)

パラ五輪で「金」夢への挑戦

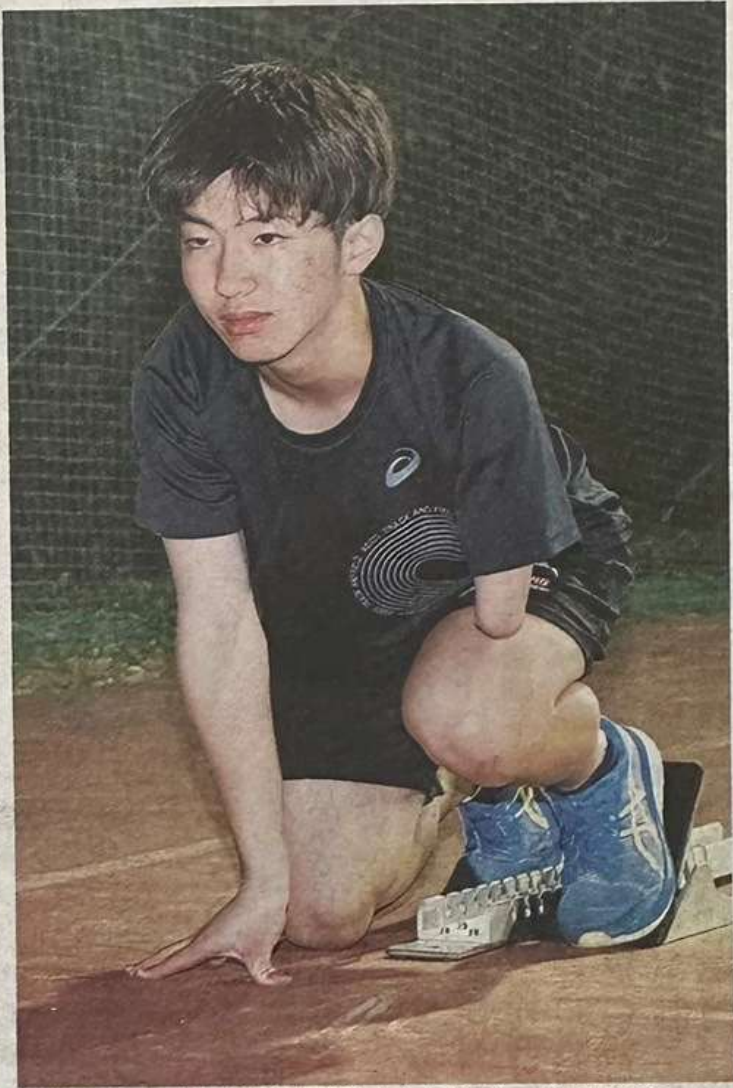
陸上100^{メートル} 県岐阜商高・山田さん

「まずは1年生で11秒台に」

陸上との出会いは、小学4年生のとき。母・恭子さんの後押しがきっかけだった。「2人で一緒にできれば、切磋琢磨できるのではないか」と勧められ、翔太さんは選手、大学まで陸上をしていた父の康治さんが

陸上との出会いは、小学4年生のとき。母・恭子さんの後押しがきっかけだった。「2人で一緒にできれば、切磋琢磨できるのではないか」と勧められ、翔太さんは選手、大学まで陸上をしていた父の康治さんが

陸上との出会いは、小学4年生のとき。母・恭子さんの後押しがきっかけだった。「2人で一緒にできれば、切磋琢磨できるのではないか」と勧められ、翔太さんは選手、大学まで陸上をしていた父の康治さんが



パラ五輪出場を目指す山田さん＝山県市で

に良くなっていた100^{メートル}のタイムは、部活動の成果で中学1年のうちに約1秒縮まった。「タイムが伸びていくのがうれしくて、陸上が楽しくなっていた」と練習にのめり込んだ。2年時には、走力は学年でもトップクラスに。大会出場も重ね、昨年10月に佐賀であつた全国障害者スポーツ大会では、金メダルを獲得。「大会に出て、他の選手と交流するのが楽しいです」と新たな楽しみも見つけた。

県岐阜商高は、父親の母校でもある。康治さんは「2人の妹も翔太を見て陸上を始めた。家族みんなで陸上をやるきっかけになった」と話す。翔太さんの100^{メートル}のベストタイムは12秒43。「まずは高校1年のうちに11秒台にいきいたい」と目標を語る。さらに目指すのはもっと高いところ。

「パラ五輪に出て、金メダルを取りたいです」。未来を見据え、闘志を燃やしている。